

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202081		
法人名	株式会社日本ケアオリティ		
事業所名	グループホーム大空		
所在地	静岡県葵区古庄3-23-1		
自己評価作成日	令和5年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和6年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 12月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の訴えをしっかりと傾聴し1人1人の希望に添った介護をしています。 ・個別ケアを行っています。 ・利用者様が安心して生活できる環境を作るように心掛けています。 ・身体拘束に取り組み、普段からコミュニケーションをとるようにしています。 ・隣の園児達との交流。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは県内にグループホームや有料老人ホームを多数運営する法人の運営であり、災害時などで連携を図る体制となっている。利用者へ寄り添ったケアの提供を行うため、起床時間や食事の時間などホームの都合に合わせるのではなく、利用者の希望や生活リズムを尊重し無理強いをしないケアの実践を目指している。地域との交流はコロナ禍によって一時途絶えていたが、運営推進会議の対面開催や夏祭りへの参加などを再開しており、徐々にではあるが日常を取り戻す取り組みを行っている。ホームの隣は保育園であり、リビングの窓やテラスから間近に園庭を見渡せ、そこで遊ぶ園児たちと日々の交流を楽しむことができる環境である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい職員も増え理念が浸透されていません。理念を分かりやすい理念に変更を検討しています。	「大空に抱かれ、この町でその人らしく暮らし続けられるよう 青空の如く…」をホームの理念としている。より分かりやすい理念とするため直近の会議で検討を行う予定となっている。	検討の結果職員にわかりやすく浸透しやすい新しい理念が完成することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報しずおかを見たりしています。お祭りなどに参加させてもらっています。	コロナ禍以前はホームの祭りや認知症の勉強会などの催しに地域住民の参加があったが現在は途絶えている。現在地域の夏祭りに少数の利用者が参加、隣の保育園との交流など少しずつ交流が再開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中に近隣の方に挨拶を交わしています。千代田包括支援センターの相談会に管理者が参加し認知症について話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症も5類になり、7月から運営推進会議も対面で行えるようになりました。包括支援センター、民生委員の方々に取り組み状況、意見交換を行っています。ご家族様にも議事録を送り意見をいただきサービス向上に活かしています。	コロナ禍により書面開催となっていたが、本年7月より対面での会議が再開されている。会議資料を家族に送付し事前に意見を求めるが利用者について個別の希望が多く寄せられている。議事録はホームページに掲載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活支援課の担当の方に分からない事や相談事をホームから連絡をしています。	疑問点や書類の提出など積極的に連絡を行い、さらに窓口に出向くことで顔の見える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束指針に沿って行っています。身体拘束0宣言を掲げており、3カ月に一度、身体拘束の会議を、行っています。センサーの設置の際もご家族に承諾をいただいています。近年、不審者が多発しているため玄関は施錠しています。	身体拘束は行わない方針であるが、防犯上玄関は終日施錠されている。身体拘束に関わる研修を年3回実施し、本年はスピーチロックを行わない研修として言葉の言い換えについての勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度会議、1年に3回勉強会を行っています。虐待が見逃ごされないように、カンファレンスを通じて話しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学ぶ機会がありますが、職員はなかなか直接うける機会がないです。ケアマネジャー、介護福祉士にべんきょうも兼ねて勉強会をし活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っています。丁寧に分かりやすく説明しています。分からない事はその都度、説明しています。不安や疑問点は、本社と連携し理解、納得いただけるように務めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は、運営推進会議などで報告し意見をいただいています。出席できないご家族様も多いので郵送にて送っています。	家族からの意見は、面会の際に管理者やユニットリーダーが主に聞き取りを行うが、不在の際は介護職員が行っている。聞き取った情報は連絡ノートやケース記録に記入し共有されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンス、会議や面談の時に意見や提案を聞いています。それ以外でも意見や提案がある時は直接管理者に話を聞いてもらっています。	毎月の会議や年2回程度実施する面談に加え、日々の業務の中で意見を聞き取る機会がある。意見によりフロアごとに違っていた食事の時間が統一され、レクリエーションを行う時間ができたとの実例を聞き取る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度、管理者面談、スキルアップなどを含めて把握しています。時短、半休、有休、産休、介護休など職員に合った働き方を臨機応変に対応しています。また、業務改革、時短調理、休憩は1時間など職場環境、整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者面談、評価制度などで把握しています。業務の改善や情報共有を行っています。内外部の研修に参加するように呼びかけたり、資格取得の呼びかけをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症5類になりましたが、感染症拡大の危険もあるので感染対策をしっかり行い、交流や機会を作り、サービスの質向上に取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメントやご本人様ご家族様の声に耳を傾けながら行い、コミュニケーションをとりながら安心して生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や初回アセスメントで、ご家族様が困っている事不安な事、要望に耳を傾けながら関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人様ご家族様の話を聞き、その時に必要としている支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の「できる事」「できない事」を把握しできる事は行っていただいています。張りのある生活ができるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告書にて日常の様子、受診結果をご家族様に報告しています。ホームのイベントに参加されたり、共に支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症5類になってからご家族様は居室にて面会を再開されました。また、手紙、ハガキで関係が途切れない様に支援に努めています。	コロナ禍において面会は玄関先で窓越しで行うこととなっていたが、現在は親類であれば居室での面会が可能となり、さらに外出や外泊も可能とし、コロナ以前の対応に戻りつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でのコミュニケーションを大事に、関わり合い支え合いできるように支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや個人情報、ご本人様の声、意向の把握に努めています。困難な場合は本人本位に検討しています。	日々の生活の中で職員が聞き取り、把握した情報はケース記録に記入し共有を図っている。意見の表明が困難な利用者に対しては、家族からの情報や普段の会話から意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	楽しいことやご家族様の話をする事で、生活歴や生活環境、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア過ごし方、心身状態、精神面の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスでご本人様ご家族様、関係者の意見も反映し、現状に合わせた介護計画を作成しています。	各利用者ごとに担当者が決まり、その担当者が各職員からの情報を集約している。情報から計画作成担当者が介護計画の作成を行い、ユニットごとに用意されたファイルに綴られ共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきをタブレットの記録に記入職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでのサービスが、ご本人様にそぐわない時は、カンファレンスの開催や柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症が5類になったので、徐々に自治会の祭りや散歩にだかけ、交流が増えました。隣の保育園とも少しずつ交流ができるよう支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とホームとの関係を築き、医師、管理者を含めご本人様ご家族様との話し合いを行っています。適切な医療が受けられるように支援していきます。	現在全ての利用者が往診を行う提携医をかかりつけ医としている。かかりつけ医以外の受診は家族が付き添うことを基本としており、この場合は受診前に情報を記した手紙が発行される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護師に日常の事や小さい事も相談したり報告しています。適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医師ご家族様と連携をとりながら情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、ご本人様ご家族様、かかりつけ医とICを行っています。また、ホームでできることを十分に説明し、方針共有しています。年に一度、看取り研修を行い、チームで取り組んでいます。	10年ほど前から終末期の対応を行うことを方針としており、本年はこれまでに3件の実例がある。年に1回の研修に加え、経験のある職員が未経験の職員を指導する形で知識や経験が引き継がれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応、応急手当の研修を行って、実践力を身につけるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修、避難訓練を行っています。利用者様、職員共に身につけ、地域との協力体制や会社の連携チームがあります。	水害や火災、地震を想定し年3回避難や消火器の使用方法、連絡方法などの訓練を行うが、より実践的に告知なしでの訓練も実施している。大規模災害では法人内のホームが物資を融通し合う取り決めがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、尊厳し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。忙しい時に声が大きくなったり口調が強くなるようにしています。研修を行い対応や声掛けについて気をつけていますが、できない職員もいます。	申し送りなど個人情報を利用者の耳に触れないように配慮している。また研修を年3回程度実施し、利用者の話を否定せず傾聴を行うよう支援している。さらに必要に応じて管理者が個別に指導を行うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望が伝えられたり表情などで察知しています。自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースにを大切にし個別ケアにも力を入れています。なるべく希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洋服の選択や化粧、髭剃りを行っています。ご自分で出来ない方は、更衣、ホットタオルで顔を拭き口腔ケア介助、髪をブラッシングなどの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のリクエストや季節の食べ物などの話をして献立を考える事もあります。野菜を切ったり、盛り付け、食器拭きや片づけを一緒に行っています。また、食事前にメニューをお伝えしたり、ボードに書いています。食事前に口腔体操をして美味しく召し上がっています。	栗ご飯など季節に応じた食材の提供や希望を聞き買い物をし調理をしている。人員不足のため一時的対応として、本年11月より湯煎や冷凍食材の活用も行っている。片付けや食器拭きなど利用者の参加を積極的に行ない支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、水分量をかかりつけ医と相談しています。栄養バランスはい日に10品目を摂取できるように記入し夕食作りで調整します。食事形態なども状態、状況に合った支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの一覧表があり個々に合った口腔ケアを行い、痛み、かみ合わせが悪い時はご家族様に相談し承諾をいただき訪問歯科医院で診ていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレの声掛けや誘導を行っています。車椅子の方でも2人介助にて、なるべくトイレでの排泄ができるように支援していきます。	排泄チェック表により排泄間隔を把握し適時に誘導を行っている。下剤を使わない自然な排便を目指し、乳酸菌飲料やホットミルクの提供、運動やホットタオルを腹部に当てるなどの取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に毎朝、乳酸菌ドリンクを飲まれたり、ラジオ体操で体を動かしたり、個々に応じた予防にも取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく利用者様の希望やタイミングに合わせています。入りたくない日は後日したり、午前から午後に変更したり個々に合わせ入浴さ支援を行っています。	入浴は午前中の実施を基本とするが、無理強いくことなく必要に応じて午後に変更するなど柔軟に対応をしている。入浴剤を選べるよう3種類程度用意したり好きな音楽を流すなどの工夫を凝らしている。また入浴時は職員とゆっくり話す機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況や状態に応じて室温管理、寝具の調整や清潔保持を行い、休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬説明書を見て理解し、2人で声を出して確認し内服しています。変更時は副作用など申し送りを行い共有しています。体調、症状の変化は、かかりつけ医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし新聞を読まれたり簡単な家事をされています。季節の紙工作、散歩、手足の運動、レクリエーションなどの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に添い、散歩やドライブに出かけられるように支援に努めています。ご家族様と一緒に外食、外泊されるように支援しています。	日常的な外出として近隣の神社や公園などへ週1～2回程度散歩に出掛けている。また外出行事として紅葉見物などのドライブを年3～4回程度行っている。必要に応じて個別で買い物の外出も随時行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症5類になったので、こらから使えるように支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、親戚、ご友人と希望があれば電話をかけてあげたり、電話がかかって来た時はつなげ話をしています。手紙のやり取りをしている方は、職員と一緒にポストに出しにいたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、居室は毎日掃除をしています。室温、湿度に気を付けています。生活音なども気になる利用者様も多いので配慮しています。また、季節感を取り入れたり、居心地よく過ごせるような工夫をしています。	静かで安心した環境を提供するため、職員の話し声や足音、水道の音などを小さくするようにカンファレンスにて話し合いの場を設けている。共用部には季節感のある演出としてクリスマスなど季節に合わせたイベントの装飾を利用者と共に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファを置いて日向されたり気の合った利用者様と談笑されています。自席についても食事以外は移動されて、好きに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族様と相談し、なるべく生活環境を変えないように、使い慣れたものや好みのものを活かして、ご本人様が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	居室は洗面台とクローゼットの用意があり、介護用ベッドはリースとなっている。入居前の環境に近づけるため使用していた家具の持込みを推奨しており、位牌や仏壇、ドレッサーなどが配置されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように個別で工夫している	「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように個別で工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202081		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム大空		
所在地	静岡市葵区古庄3-23-1		
自己評価作成日	令和5年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和5年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の尊厳を大事にし、寄り添い支援して ・ホームのテラスから隣の園児達の声が聞こえたり話しをしたり交流がある。 ・地域の祭りや掃除に参加しています。 ・職員のスキルアップ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、覚える事が難しいという事もあり分かりやすい理念に変更を検討しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報しずおかを見たりしています。お祭りなどに参加させてもらっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中に近隣の方に挨拶を交わしています。千代田包括支援センターの相談会に管理者が参加し認知症について話をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症も5類になり、7月から運営推進会議も対面で行えるようになりました。包括支援センター、民生委員の方々に取り組み状況、意見交換を行っています。ご家族様にも議事録を送り意見をいただきサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、生活支援課の担当の方に分からない事や相談事をホームから連絡をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束指針に沿って行っています。身体拘束0宣言を掲げており、3カ月に一度、身体拘束の会議を、行っています。センサーの設置の際もご家族に承諾をいただいています。近年、不審者が多発しているため玄関は施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度会議、1年に3回勉強会を行っています。虐待が見逃されないように、カンファレンスを通じて話しあっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学ぶ機会がありますが、職員はなかなか直接うける機会がないです。ケアマネジャー、介護福祉士にべんきょうも兼ねて勉強会をし活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っています。丁寧に分かりやすく説明しています。分からない事はその都度、説明しています。不安や疑問点は、本社と連携し理解、納得いただけるように務めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は、運営推進会議などで報告し意見をいただいています。出席できないご家族様も多いので郵送にて送っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のカンファレンス、会議や面談の時に意見や提案を聞いています。それ以外でも意見や提案がある時は直接管理者に話を聞いてもらっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度、管理者面談、スキルアップなどを含めて把握しています。時短、半休、有休、産休、介護休など職員に合った働き方を臨機応変に対応しています。また、業務改革、時短調理、休憩は1時間など職場環境、整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者面談、評価制度などで把握しています。業務の改善や情報共有を行っています。内外部の研修に参加するように呼びかけたり、資格取得の呼びかけをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症5類になりましたが、感染症拡大の危険もあるので感染対策をしっかり行い、交流や機会を作り、サービスの質向上に取り組んでいきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやご本人様ご家族様の不安、要望に耳を傾け安心して生活していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談の段階から、困っている事、不安の事要望に耳を傾け、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活の中で、できる事できない事を観察し、必要とする支援を見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できる事できない事を把握し、ご本人様の残存機能を大切に、安心安全の生活が送れるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、月次報告書でご家族様にご本人様の様子や受診の報告を行っています。ホーム内のイベントなどの参加も呼びかけています。電話をしたいた時には、ご家族様に取り次いでいます。面会や外食、外泊の支援も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の承諾を得た上で、電話や手紙、面会の支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションの橋渡しを行っています。孤立しないように関わりをもってイベントやレクリエーションに参加できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて契約終了後も、ご家族様の相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや個人情報、ご本人様の声、意向を把握に努めています。困難の場合は本人本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	楽しいことやご家族様の話をする事で、生活歴や生活環境、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケア過ごし方、心身状態、精神面の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスでご本人様ご家族様、関係者の意見も反映し、現状に合わせた介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づきをタブレットの記録に記入職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでのサービスが、ご本人様にそぐわない時は、カンファレンスの開催や柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症が5類になったので、徐々に自治会の祭りや散歩にだかけ、交流が増えました。隣の保育園とも少しずつ交流ができるよう支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とホームとの関係を築き、医師、管理者を含めご本人様ご家族様との話し合いを行っています。適切な医療が受けれるように支援していきます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護師に日常の事や小さい事も相談したり報告しています。適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医師ご家族様と連携をとりながら情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、ご本人様ご家族様、かかりつけ医とICを行っています。また、ホームでできることを十分に説明し、方針共有しています。 年に一度、看取り研修を行い、チームで取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応、応急手当の研修を行って、実践力を身につけるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修、避難訓練を行っています。利用者様、職員共に身につけ、地域との協力体制や会社の連携チームがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、尊厳し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。忙しい時に声が大きくなったり口調が強くなるようにしています。研修を行い対応や声掛けについて気をつけていますが、できない職員もいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望が伝えられたり表情などで察知しています。自己決定ができるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースにを大切にし個別ケアにも力を入れています。なるべく希望にそって支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洋服の選択や化粧、髭剃りを行っています。ご自分で出来ない方は、更衣、ホットタオルで顔を拭き口腔ケア介助、髪をブラッシングなどの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のリクエストや季節の食べ物などの話をして献立を考える事もあります。野菜を切ったり、盛り付け、食器拭きや片づけを一緒に行っています。また、食事前にメニューをお伝えしたり、ボードに書いています。食事前に工区体操をして美味しく召し上がっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量、水分量をかかりつけ医と相談しています。栄養バランスはい日に10品目を摂取できるように記入し夕食作りで調整します。食事形態」なども状態、状況に合った支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの一覧表があり個々に合った口腔ケアを行い、痛み、かみ合わせが悪い時はご家族様に相談し承諾をいただき訪問歯科医院で診ていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレの声掛けや誘導を行っています。車椅子の方でも2人介助にて、なるべくトイレでの排泄ができるように支援していきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に毎朝、乳酸菌ドリンクを飲まれたり、ラジオ体操で体を動かしたり、個々に応じた予防にも取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく利用者様の希望やタイミングに合わせています。入りたくない日は後日したり、午前から午後に変更したり個々に合わせ入浴さ支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況や状態に応じて室温管理、寝具の調整や清潔保持を行い、休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬説明書を見て理解し、2人で声を出して確認し内服しています。変更時は副作用など申し送りを行い共有しています。体調、症状の変化は、かかりつけ医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし新聞を読まれたり簡単な家事をされています。季節の紙工作、散歩、手足の運動、レクリエーションなどの支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添い、散歩やドライブに出かけられるように支援に努めています。ご家族様と一緒に外食、外泊されるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症5類になったので、これからはご自分でお金を所持したり使えるように支援していきたいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様、親戚、ご友人と希望があれば電話をかけてあげたり、電話がかかって来た時はつなげ話をしています。手紙のやり取りをしている方は、職員と一緒にポストに出しにいたりされています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、居室は毎日掃除をしています。室温、湿度の気を付けています。生活音なども気になる利用者様も多いので配慮しています。また、季節感を取り入れたり、居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファを置いて日向されたり気の合った利用者様と談笑されています。自席についても食事以外は移動されて、好みに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族様と相談し、なるべく生活環境を変えないように、使い慣れたものや好みのもを活かし、ご本人様が居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように個別で工夫している	「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように個別で工夫しています。		